

支部だより

「浄土思想を基調とする文化的景観・平泉」をめざして

女性マネジングスタッフ協議会一関支部

朝田建設㈱ 朝田茂子

暖冬で雪も少なかった県南地方も、周り一面緑となり、田植えの終わった田んぼには水がなみなみと張られ、浄土の世界を現しております。早苗が風にそよぐ風景にしばし心が和みます。今は小さな苗もこれからどんどん成長し、秋にはたわわに実り、黄金色の絨毯となることでしょう。

私たち建設業界も新年度がスタートし、もう2ヶ月。取り巻く環境は相変わらず厳しいものがありますが、この先少しでも実りあるものになりたいと願いつつ、建設業女性マネジングスタッフ協議会一関支部としても会員一同、会社のため、地域のために少しでもお役に立てれば、と日々奮闘しているところです。

世の中の景気が低迷しているなか、明るい話題もあります。今、注目されているのが私たちが住み、暮らしている平泉が世界遺産登録を目指していることです。

今から800年前、12世紀に建てられた華麗な建造物や工芸品は京の都に匹敵するほどと言われております。

悠々と流れる北上川は全長250キロメートルの大河であり、人々に潤いをもたらしてくれる川であります。藤原時代もきつとこの川を愛し、舟運は文化と産業を発達させる一翼を担っていたことでしょう。

今、平泉は世界遺産登録に向けて、県内各地



の方々、また遠くからも平泉を愛してくださる皆様のご支援をいただきながら頑張っているところです。

初代藤原清衡公は、前九年、後三年の合戦で亡くなった敵味方の別なく、また鳥類、動物、魚介類に至るまでのすべての生命を供養し、戦争のない平和な社会をつくりたいと願い、城を築かず中尊寺を建立したと、「中尊寺供養願文」に記しております。また、国宝第1号に指定された金色堂は金で覆われ、まばゆい光を今も放っております。

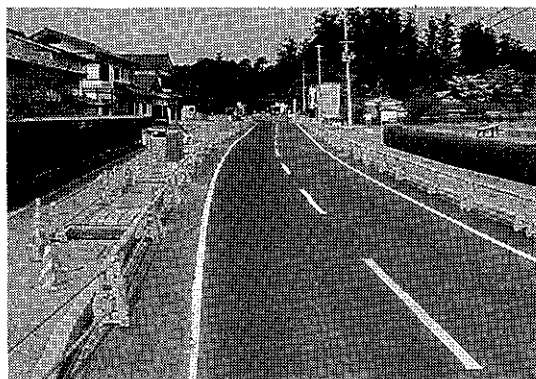
平泉町では世界遺産登録を目前にしていろいろな整備事業が行われております。JR平泉駅から中尊寺線（昔の奥州街道）にかけては拡幅しないでカラー舗装をする予定になっており、途中には宇治の平等院鳳凰堂を模して造られた無量光院跡や史跡が多く残っております。

また、毛越寺門前付近の街路整備も今盛んに

進められております。延長400メートルで幅員16メートル、電柱は地中化の予定で歴史的景観との調和を考えたデザイン、材質となっております。また、歩道の一部に緑豊かで歩行者のオアシスとなるべくポケットパークを完成させるところです。当時は大路といわれ、幅員が30メートルもあったといわれております。毛越寺は二代基衡公が造ったお寺ですが、それも贅を尽くした建物であり、春はあやめ、秋には萩で彩られた浄土庭園です。

先日、建設業協会一関支部ではこの毛越寺前から巖美溪までの県道沿い約9キロメートルに400本の萩の苗を植栽し、「萩街道」と名づけました。来年の秋には紫色の可憐な花を咲かせてくれることを期待しております。地域の方や通る方に喜んでもらいたいということで、地域貢献になればと宇部支部長率先しての植栽でした。

また、平泉には町内を歩いて散策できるウォーキングトレイルが6ヶ所にあります。中尊寺近くの木立の中は遠野で育った木材で作った遊歩道がありますし、毛越寺の北の山中にも散策できるウォーキングトレイルがあり、歩いてみま



すと緑あふれる中、時折ウグイスが鳴き、心が癒されます。林となっている年輪を重ねたアカマツは時の流れを静かに見てきたのでしょうか。

歴史の街、平泉。どこを歩いても古の薫りが感じられます。義経堂のある高館に立ちますと、義経公が馬に乗って駆け巡る音さえ聞こえそうです。私はそんな平泉が大好きです。

平泉の町並みはまだまだ不備なところもありますが、これからも景観を重視した『浄土思想を基調とする文化的景観・平泉』というコンセプトで、世界遺産にふさわしいまちづくりの一端を地元の建設業として、マネージングの一員として担っていきたいと考えております。

